

美術

Art

「対話的な学び」を具現する授業デザイン例

福島県教育庁相双教育事務所



▶ 学年 中学校 第2学年

▶ 題材 「ようこそ 浮世絵美術館へ」(B 鑑賞)

POINT
01

対話的な学びを引き出す教師の仕掛け

鑑賞は単に知識や定まった作品の価値を学ぶだけの学習ではなく、知識なども活用しながら自分の中に作品に対する新しい価値をつくりだす学習である。本題材では、浮世絵を中心に3点程度の作品を選んで各自がミニ展覧会を企画し、ICT端末で紹介しながら解説をする活動を設定した。子ども自身が感じたことや調べたことを基に、作品の魅力や鑑賞のポイントについて発表し、感想を交流した。

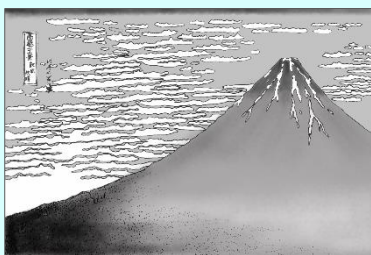
POINT
02

対話的な学びの様子

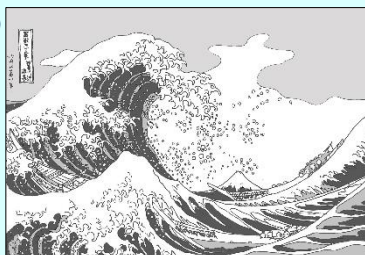
◎ 生徒Aが選んだ作品を見合い、感想を交流する。

生徒A「私は、富士山が描かれた作品を集めました。皆さんはこれらを見てどう思いますか。」

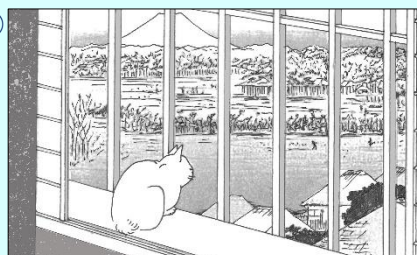
①



②



③



生徒B「①は富士山が中心で、大きな富士山の堂々とした感じが伝わってくる。」

生徒C「②と③は、遠くに富士山が描かれています。大きいはずの富士山を小さく描いたことで、手前にあるものとの遠近感が強調されていると思います。」

教師「以前学習した遠近法に着目したのですね。Cさんの感想についてどう思いますか。」

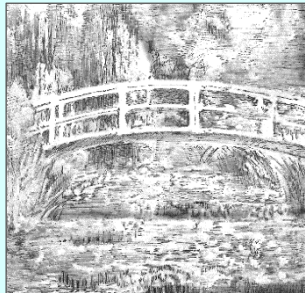
生徒B「Cさんの言うように、②は、手前の波の迫力が伝わるように構図を工夫して描いているんだね。」

生徒A「①、②は葛飾北斎の『富嶽三十六景』というシリーズ作品の中の2枚です。他にも富士山をいろいろな場所や角度から描いた浮世絵があるので、比べてみると面白いです。」

◎ 交代し、生徒Bが選んだ作品について感想を交流する。

生徒B「僕は、橋をテーマにした作品を集めて調べました。すると、西洋画にも浮世絵の影響を受けたものがあるということが分かったので、さらに詳しく調べてみました。」

④



⑤



生徒B「モネの『睡蓮の池と日本の橋』(④)には、広重の絵(⑤)にそっくりな橋が油絵で描かれています。モネは、自宅に日本風の庭園までつくったそうです。」

生徒C「本当だ！前に鑑賞したゴッホの絵も、背景に浮世絵が描かれていたよね。」

生徒A「ゴッホが浮世絵を写して描いた絵も教科書に載っていたよ。」

生徒B「19世紀後半のヨーロッパでは、新しい表現を求めた芸術家たちが日本の美術に注目し、大ブームになりました。それを『ジャポニスム』と言うそうです。」

教師「日本の美術と外国の美術のつながり、相違点や共通点を見つめるのも楽しいですね。」

「授業改善グランドデザイン」との関連

生徒の発言をつなぎ、集団で学び合える授業づくりを行うことが大切である。それぞれの鑑賞の視点について価値付けたり、他の生徒に問いかけたりすることで、学び合いにつなげる。

POINT
03

学びが深まった生徒の姿

その後の振り返りでは、「日本の浮世絵が外国でもとても人気があり、高い評価を受けていることを知って驚いた。」「遠近法がどのように使われているのか、もっと他の絵も見たいと思った。」などの感想が出された。作品を見て説明を聞くだけでなく、自分が選んだ絵について調べたり、発表して感想を交流したりすることを通して、美術作品や美術文化についての見方や感じ方を深めることができた。